

(規則) 様式第7 (第7条関係)

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令8年 6月2 日

犬 山 市 議 会

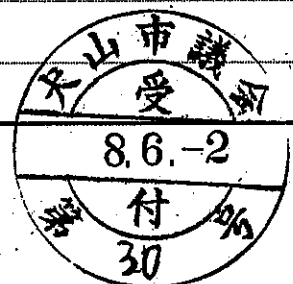
議 長 大沢秀教 様

議員名

柴山一佳

下記のとおり、研修 の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令8年 5月27 日 (水) ~ 令8年 5月28 日 (木) (泊 2 日)
(2) 場 所	明治大学アカデミーコモン
(3) 形 態	会派 () : その他 ()
(4) 内 容	別紙参照
(5) 成 果 ・ 提 言	別紙参照,



令和8年6月2日

犬山市議会議長
大澤秀教様

清風会
柴山一生

第18回日本自治創造学会研究大会に参加報告書

日時：令和8年5月27日～28日
場所：明治大学アカデミーコモン
テーマ：人口減少下の新たな挑戦

報告

第18回日本創造学会 参加報告書

1 参加目的

人口減少、少子高齢化、地域コミュニティの希薄化など、地方自治体を取り巻く課題が複雑化する中、地域創生や自治体経営の新たな方向性について学び、今後の議会活動及び地域づくりに活かすことを目的として、第18回日本創造学会に参加した。

2 研修概要

本学会では、地方自治、地域創生、デジタル技術の活用、二地域居住、関係人口の創出など、多様なテーマについて有識者や実践者から講演が行われた。

(1) 公と民の共創の時代

穂坂邦夫氏は、「公と民の共創の時代」をテーマに講演された。従来の行政主導型から、住民や民間事業者との協働による地域運営へと転換する必要性が示された。

特に印象的だったのは、「行政の主体が議会に移る時代である」という指摘である。自治体運営において議会の役割がより重要となり、住民から拍手をもらえるような自治体づくりを目指すべきとの提言は大変示唆に富むものであった。

(2) 地方自治を取り巻く環境変化

総務省自治行政局長の小川康則氏からは、地方自治を取り巻く現状について講演があった。

地方分権改革が進む一方で、国と地方を分け過ぎたことによる弊害も生じていること、また上下関係ではなく対等な関係へ転換していく必要性が示された。

さらに、指定管理者制度の普及や官民連携の進展など、行政サービスのあり方も大きく変化していることが紹介された。これまでの新自由主義や NPM (New Public Management) への反省を踏まえながら、新たな公共のあり方を模索する重要性を学んだ。

(3) 生成 AI と自治体経営

株式会社松尾研究所副社長の金剛洙氏からは、生成 AI や AGI (汎用人工知能) の発展について講演があった。

AI 技術の急速な進歩により、多くの業務が代替される可能性がある一方で、人間にしかできない創造的な仕事の価値が高まることが示された。自治体においても AI を活用した業務効率化と、人間による地域課題解決の両立が重要になると感じた。

(4) 都市と地方をつなぐ新しい関係

高橋博之氏は、都市と地方の分断が進む現状について問題提起された。

集団就職などによって地方から都市へ人が流出し、世代が進むにつれて故郷とのつながりが薄れている現状がある。その一方で、都市住民も孤立し、「おひとり様」の増加など新たな社会課題を抱えている。

氏が取り組む「ポケットマルシェ」は、生産者と消費者を直接つなぎ、都市と地方をかき混ぜる仕組みとして注目される。過疎は慢性的な災害であり、平時から都市と地方が関係を持つことの重要性が強調された。

また、関係人口の創出や二地域居住の推進、地域住民と外部人材が共に地域を支える「関係自治」という考え方は、今後の地方創生において重要な視点であると感じた。

(5) 磐梯町の挑戦

福島県磐梯町の事例では、人口約 4,000 人規模の町が、外部人材の活用や副業・兼業を認める柔軟な働き方を推進しながら地域活性化に取り組んでいることが紹介された。

都市ではライスワーク（生活のための仕事）が中心になりがちである一方、地方ではライフワーク（生きがいとしての仕事）を実現できる可能性があるという考え方は非常に印象的であった。

(6) 地域資源を活かしたまちづくり

長野県小諸市や長崎県長与町などの事例では、地域資源を活用したまちづくりの実践が紹介された。

無人駅の有効活用や空きスペースの再生、地域住民と民間事業者が連携したまちづくりなど、既存資源を最大限活かす創意工夫が地域の魅力向上につながっていることを学んだ。

3 所感

今回の学会を通じて、「行政だけでは地域課題を解決できない時代」が到来していることを改めて認識した。

人口減少や高齢化が進む中、行政・議会・住民・企業・地域外の人材がそれぞれの立場を超えて協働することが求められている。また、都市と地方を対立的に捉えるのではなく、相互に支え合う関係を構築することが重要である。

さらに、生成 AI などの新技術を積極的に活用しながらも、人と人とのつながりや地域への愛着といった、人間にしか生み出せない価値を高めていく必要性を感じた。

4 犬山市への提言

二地域居住の研究

以上